令和４年11月１日
記者発表

令和４年度和歌山県文化表彰について

令和４年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

１　受賞者（５０音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏　名	年齢	住　所	出身地	分 野
武内和彦（たけうち かずひこ）	71	東京都	和歌山市	環境学者

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏　名	年齢	住　所	出身地	分 野
ＴＯＮＰＥＩ（とんぺい）	64	紀の川市	紀の川市	歌手
宮澤敏夫（みやざわ としお）	79	静岡県	台湾	音楽家
宮西照夫（みやにし てるお）	73	美浜町	美浜町	医学者

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏　名	年齢	住　所	出身地	分 野
岩田直樹（いわた なおき）	26	茨城県	紀の川市	グラフィックデザイナー
寺下真理子（てらした まりこ）	40	東京都	和歌山市	ヴァイオリン奏者
冷水乃栄流（ひやみず のえる）	25	埼玉県	橋本市	作曲家

（年齢は令和４年11月10日現在）

２　表彰式

(1) 日　時　　令和４年11月10日（木）14時～

(2) 場　所　　和歌山県庁本館４階 正庁

３　賞

表彰状、徽章（きしょう）（メダル）並びに副賞をお贈りします。

４　沿　革

昭和39年度より実施、本年度で59回目を迎えます。

５　来年度の候補者の推薦

令和５年４月下旬から６月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。

（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

担　当　課	文化学術課
担　当　者	胡麻・安井
電　　話	073-441-2050（内線2060）

令和４年度和歌山県文化賞

たけうち　かずひこ
武内　和彦

住　　所　東京都北区
出 身 地　和歌山県和歌山市
生　　年　昭和 26 年

◎ 業績及び経歴

昭和26年和歌山市に生まれる。昭和49年東京大学理学部地理学科を卒業。昭和51年同大学院農学系研究科修士課程を修了した後、農学博士となる。

東京都立大学理学部助手、東京大学農学部助教授、同アジア生物資源環境研究センター教授を経て、同大学院農学生命科学研究科教授。同大学サステイナビリティ学連携研究機構長、国連大学上級副学長、中央環境審議会会長、日本学術会議副会長等を歴任。

緑地環境学、地域生態学、サステイナビリティ学を専門として、人と自然が共生する社会の実現に尽力。フィールド調査と環境情報システムを組み合わせた客観的で定量的な環境保全機能の評価に基づく地域環境管理計画手法を開発。各地の地域環境管理の取組を先導し地域生態学の分野を確立した。

また、里地・里山における景観構造や生物多様性の維持機構を解明。人の手が入る二次的な自然の保全再生や伝統的土地利用の再構築に向け、世界各地との連携を目指すSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップの設立運営に多大な貢献を果たした。

さらに、これらの研究成果を持続的な社会-生態システムの再構築を目指すサステイナビリティ学へと展開。多くの著書や氏が編集委員長を務める国際学術誌を通じて国内外に広く発信し、社会実装に繋げてきた。「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定、農林水産省による日本農業遺産認定活動の開始、第五次環境基本計画における地域循環共生圏の創造等は、まさに氏が一貫して提唱してきた持続可能な地域環境づくりを具現化した例といえる。

サステイナビリティの観点から、人と自然が共生する社会の実現に向け、伝統的な知識と近代的な科学技術を融合させるという氏の研究実践内容は、今後、日本のみならず世界が進むべき方向性を鮮やかに指し示すものであり、氏の優れた先見性と高度な学際性は、世界に向けた本県の誇りである。

■現　在

・公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長
・東京大学未来ビジョン研究センター特任教授
・東京大学名誉教授
・国連大学サステイナビリティ高等研究所客員教授

◆主な表彰歴等

昭和56年　日本造園学会賞
平成７年　農村計画学会賞
平成７年　日本都市計画学会石川賞
平成20年　環境大臣表彰（環境保全功労者）
平成29年　日本農学賞・読売農学賞
平成30年　Otto Soemarwoto Award（インドネシア）
平成30年　和歌山県知事表彰（産業の振興農林業）
平成31年　市村賞地球環境学術賞貢献賞
令和３年　みどりの学術賞（内閣総理大臣賞）
令和４年　日本造園学会上原啓二賞

令和４年度和歌山県文化功労賞

TONPEI（本名　田中　良幸）

とんぺい　たなか　よしゆき

住　　所　和歌山県紀の川市
出 身 地　和歌山県紀の川市
生　　年　昭和 33 年

◎ 業績及び経歴

昭和33年那賀郡粉河町（現紀の川市）に生まれる。小学生の頃からドラムを始め、中学生の時にフォークソングに傾注。県立和歌山北高等学校在学時にヴォーカルとしてバンドを結成する。

プロを目指して上京した後、結婚を機に和歌山に活動拠点を移し、和歌山市内の楽器店に就職。音楽教室運営等に従事しながらアマチュアとして音楽活動を行う。50歳の時にプロの演奏家をバンドメンバーとして迎え開催した和歌山県民文化会館でのライブが大盛況となる。

54歳でサラリーマンを退職し、プロシンガーソングライターとして本格的に活動を開始。「歌で和歌山を元気に」を合言葉に「TONPEI BAND」を率いてコンサート活動を行う。平成24年に発売したセカンドアルバムのタイトル曲でもある「夢は途中」は、老若男女、頑張っている人々への応援歌として、多くの人々に共感と勇気を与え、関西テレビ「ギョクセキっ！」やテレビ大阪「大阪発しゃべるランチタイム なにしよ!?」の番組エンディングテーマ曲としても取り上げられた。

また、平成26年には日本生命セ・パ交流戦2014のオリックス・バファローズ対阪神タイガース戦の京セラドームにおいて国歌斉唱を行ったほか、身近な人を元気にしたいという思いから、介護施設等で積極的にライブ活動を展開。和歌山放送ラジオ「TONPEIの今夜もうたWAナイト」、テレビ和歌山「TONPEIのリクカラ！」など、各種メディアに自身のレギュラー番組を持ち、コンサート活動だけにとどまらない幅広い活動を行っている。

音楽教室での指導からプロシンガーソングライターまで、活躍の舞台を様々に変えながら、長年歌を通じて地元和歌山を元気にするための活動を精力的に行い続ける氏は、本県の音楽文化の振興に尽力されており、その功績は多大である。

■現　在

・歌手

◆主な表彰歴等

平成30年　和歌山県知事表彰（文化振興）

令和４年度和歌山県文化功労賞

宮澤（みやざわ） 敏夫（としお）

住　　所　静岡県静岡市
出 身 地　台湾台北市
生　　年　昭和 18 年

◎ 業績及び経歴

昭和18年台湾台北市に生まれる。昭和41年武蔵野音楽大学器楽学部弦楽器科を卒業後、大阪フィルハーモニー交響楽団にコントラバス奏者として入団。同年から和歌山市に居住し、演奏活動の傍ら和歌山でのクラシック音楽振興を図るため「和歌山音楽振興会」を主宰。昭和45年から平成21年まで約40年間にわたり日本最高水準の演奏家を数多く和歌山に招聘し、市民参加型クラシック鑑賞の文化の礎を築く。

昭和48年、同53年の２度にわたりウィーン国立音楽大学に留学し、ルートヴィヒ・シュトライヒャーに師事。帰国後、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席コントラバス奏者に就任し演奏家として活躍するも、昭和61年財政難にあった同交響楽団を立て直すため、自ら事務局長に就任。オーケストラ再建と関西の文化の向上発展のために尽力する。平成５年には公益社団法人日本演奏連盟の事務局長に就任し、日本の音楽文化の振興と若手演奏家の育成指導に注力。平成16年には財政難に陥った札幌交響楽団の事務局長に就任し、経営再建と共に、アジア・ヨーロッパ公演、北海道全市町村での公演を見事に成功させ、同交響楽団をプロオーケストラとして初の公益財団法人化へと導いた。

平成30年からは静岡交響楽団の専務理事に就任し、新型コロナウイルス感染症の影響で苦境に立たされた浜松フィルハーモニー管弦楽団との合併及び公益法人化に尽力、公益財団法人富士山静岡交響楽団の誕生に大きく貢献した。

また、長野県伊那文化会館の館長就任や、倉敷音楽祭、木曽音楽祭等のプロデュースなど、日本各地の音楽文化の向上発展にも寄与している。

日本を代表する交響楽団の再建から、各地方都市の文化振興まで手がける氏の功績は、音楽文化の発展を牽引するものであり、誠に多大である。

■現　在

・公益財団法人富士山静岡交響楽団専務理事

令和４年度和歌山県文化功労賞

みやにし　てるお
宮西　照夫

住　　所　和歌山県日高郡美浜町
出 身 地　和歌山県日高郡美浜町
生　　年　昭和 23 年

◎　業績及び経歴

昭和23年日高郡美浜町に生まれる。昭和48年和歌山県立医科大学医学部を卒業後、同大学で精神科医として勤務。和歌山大学保健管理センター所長、評議員等を歴任し、平成24年名誉教授となる。

大学在学中に読んだ１冊の本をきっかけに、マヤ文明に興味を持つ。22歳の時にメキシコの南部国境地帯のジャングルで、マヤの末裔ラカンドン族と約１カ月間の共同生活を過ごす。以来、これまでにメキシコとグアテマラのメソアメリカ地域へ48回の現地訪問調査を行い、マヤ人の宗教・治療儀式、洞窟壁画、水中遺跡など、まだ研究が十分になされていなかったマヤ文明を、書籍等を通じて日本に紹介してきた。また、文化とこころの病をテーマにした調査研究活動を展開し、文化結合症候群、統合失調症、内戦被害者のPTSD等の研究に尽力。これらの成果により、多文化間精神医学会学会賞を受賞したほか、共同研究や学術交流が評価され、平成17年にグアテマラ国立サンカルロス大学から名誉称号“Distinguido Amigo”が授与された。氏の活動は学術研究に留まらず、和歌山大学生、市民団体、グアテマラ保健省、サンカルロス大学と共同したグアテマラ内戦被害者への支援ボランティアや、現地教育施設の建設支援など、幅広いものとなっている。

さらに、日本の文化結合症候群の一つと考えられる社会的ひきこもりについて、若者文化とこころの病に着目し、ひきこもり回復支援プログラムを開発。精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士、メンタルサポーターによる専門家集団を形成し、大学や病院、自身が創設したNPO法人ヴィダ・リブレ等を拠点に、40年以上にわたり、若者やその家族に仲間づくりや語らいを可能とする回復支援活動を行ってきた。

氏の長年にわたる文化とこころの病に着目した調査研究と実践の成果は、文化と社会の向上発展に大きく寄与するものであり、功績は誠に多大である。

■現　在

・和歌山大学名誉教授
・NPO 法人ヴィダ・リブレ理事長
・多文化間精神医学会評議員

◆主な表彰歴等

平成５年　メキシコ伝統医学アカデミーマルティン・デ・ラ・クルス賞
平成16年　多文化間精神医学会学会賞

令和４年度和歌山県文化奨励賞

いわた　なおき
岩田　直樹

住　　所　茨城県つくば市
出 身 地　和歌山県紀の川市
生　　年　平成７年

◎　業績及び経歴

平成７年、和歌山市に生まれ、幼少期を那賀郡打田町（現紀の川市）で過ごす。県立和歌山ろう学校高等部を卒業後、デザイナーを志し平成30年筑波技術大学総合デザイン学科を卒業。

幼少期から描画やものづくりなどクリエイティブな活動に親しんできた氏は、ろう学校在学中から映像作品を制作。高等部２年生時に制作した作品がローマ国際ろう映画祭「CINEDEAF」学校部門で特別賞「最優秀短編アニメーション賞」を受賞する。

大学在学中は、地域活動に率先して参加し、1万人規模の人が集う地域イベント「つくばクラフトビアフェスト」のデザイン等を手がける。卒業後は、広告会社の社員として勤務する一方、「ダイナモデザイン」の屋号でフリーランスデザイナーとして活動。

令和３年デジタル庁が「デジタルの日」を象徴するオリジナルロゴ作成者を公募した際は、候補者として世界的な映画監督や日本を代表する漫画家等が名を連ねる中、得票数１位を獲得。ロゴ作成者に決定された。そのデザインは、スマホやパソコンの画面をイメージさせる四角形をデジタルの日の３つの行動理念を表す３本のラインで形成しつつ、あえて隙間を作ることで、壁を作らず誰も取り残さないことを表現するなど、多くの想いがシンプルなデザインに凝縮された親しみやすいものとなっている。

生まれつき聴覚に障害があり、人との関わりに辛さを感じる時期もありながらもそれを乗り越え、逆に耳が聴こえないことで視覚的情報のみで生きてきたからこそ、デザインを行う上で一番大切な「わかりやすさ」に敏感でいられる、という障害をデザイナーとしての強みに換えた氏の活躍は、個性を活かし合う社会のロールモデルといえる。

「障害に関係なく楽しめる社会」を実現するため、クリエイティブな力で人や社会を変えていくグラフィックデザイナーとしての氏の躍動は目覚ましく、今後更なる活躍が期待される。

■現　在

・グラフィックデザイナー

◆主な表彰歴等

平成24年　第８回さがの聴覚障害者映像祭最優秀賞
平成26年　ローマ国際ろう映画祭「CINEDEAF」学校部門特別賞

令和４年度和歌山県文化奨励賞

てらした　　まりこ
寺下　真理子

住　　所　東京都港区
出 身 地　和歌山県和歌山市
生　　年　昭和 57 年

◎　業績及び経歴

昭和57年和歌山市に生まれる。５歳からヴァイオリンを始め、五嶋みどり氏の演奏に感銘を受けプロのヴァイオリン奏者になることを決意。練習を重ね11歳の時に第１回五嶋みどりレクチャーコンサートに出演する。平成９年第２回宮崎国際音楽祭で故アイザック・スターン氏から薫陶を受ける。その後、東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校へ進学し、同大学音楽学部器楽科弦楽専攻を卒業。卒業後に渡欧し､ブリュッセル王立音楽院修士課程を修了する。

平成16年第２回東京音楽コンクール弦楽器部門第２位（ヴァイオリン最高位）を受賞。小澤征爾氏主宰のサイトウキネン室内楽勉強会、マルタ・アルゲリッチ氏が総監督を務める別府アルゲリッチ音楽祭に参加。東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団等との共演を果たす。

平成27年、同30年、令和元年には台湾公演を開催し成功を収めたほか、氏がリリースしたアルバムCD「ROMANCE」は韓国でも大変な人気を博すなど、その活躍は日本に留まらない。

近年は、朗読や和楽器とクラシック音楽とのコラボレーションによるコンサートの開催など、新たな取組を積極的に展開。「紀の国わかやま文化祭2021」の開会式や「きのくに音楽祭」での演奏など、故郷和歌山での演奏活動も精力的に行っている。

令和３年から日本ヴァイオリンよりストラディバリウスの貸与を受ける。また、同年より本県の学生を対象とした無料応募制コンサート「Home of Spirits」を主宰。「子供達に夢を」をコンセプトに、子供達が一流の若手奏者の生演奏に触れる貴重な機会を創出している。

高度な演奏技術と美しい音色に加え華やかさも持ち合わせた天性のソリストとしての資質と、確たる信念を持ち合わせる氏は、本県の芸術文化振興の担い手として、今後より一層の活躍が期待される。

■現　在

・ヴァイオリン奏者

◆主な表彰歴等

平成８年　第50回全日本学生音楽コンクール中学生の部大阪大会第２位
平成16年　第２回東京音楽コンクール弦楽器部門第２位
平成26年　大桑文化奨励賞
平成29年　和歌山市文化奨励賞

令和４年度和歌山県文化奨励賞

ひやみず　　のえる
冷水　乃栄流

住　　所　埼玉県草加市
出 身 地　和歌山県橋本市
生　　年　平成９年

◎　業績及び経歴

平成９年橋本市に生まれる。平成28年県立橋本高等学校を卒業。令和２年東京藝術大学音楽部作曲科卒業後、同大学修士課程作曲専攻に進む。

これまでに作曲を森川隆之氏と鈴木純明氏に、ピアノを中川知保氏に師事。現代音楽を中心に幅広い音楽活動を行う。

令和２年東京藝術大学の卒業制作として作曲した「TOKYO REQUIEM for Orchestra」が第89回日本音楽コンクールの作曲部門で第２位を受賞。同年、作品「『ノット ファウンド』オーケストラのための」が第30回芥川也寸志サントリー作曲賞最終候補となり、聴衆賞に選ばれるなど、権威ある賞を受ける。

邦楽器を用いた作品も多く、箏奏曲「脆性ノスタルジア」が、NHKEテレ「にっぽんの芸能」で演奏され、日本舞踊協会の国立劇場公演で新作振付を施して披露されるなど、氏の作品は日本の主要な交響楽団から伝統芸能に至るまで各方面から支持され、再演・委嘱も多い。さらに、テレビ朝日「題名のない音楽会」の編曲や、ブルーノート東京主催の公演へのアレンジ参加など、その活躍の場は多岐にわたる。

また、氏の出身である橋本市からの委嘱により「紀の国わかやま文化祭2021」のために箏合奏曲「紀の川メモリーズ」を作曲。母校の県立橋本高等学校邦楽部が同曲を初演し好評を博したほか、第46回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門大会で「脆性ノスタルジア」を演奏し優秀賞文化庁長官賞を受賞するなど、故郷和歌山との結びつきも深い。

現代の世界の痛みとその先にある希望、脆く懐かしい遠い夏の記憶、など言葉では表現し尽くせないものを、自身の内なる風景をもとに、点と点を紡ぐように音を重ね具現化する氏の作品は、非常に芸術性の高いものであり、今後も更なる活躍が期待される。

■現在

・作曲家

◆主な表彰歴等

令和２年　第89回日本音楽コンクール作曲部門（オーケストラ）第２位
令和２年　第30回芥川也寸志サントリー作曲賞最終候補、聴衆賞
令和３年　東京藝大アートフェス2021グランプリ東京藝術大学長賞、ゲスト審査員賞
令和３年　橋本市文化奨励賞

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

≪文化賞　武内　和彦　様≫

この度は、令和４年度和歌山県文化賞を賜り、誠に光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。私は、和歌山市に生まれ、育ち、大学進学を機に東京に居を移し、今日に至っております。私はこれまでの研究を通じて、一貫して「人と自然が共生する社会のあり方」を追求してきましたが、その原点には子供の頃に親しんだ和歌山の豊かな自然と人々の営みの記憶があります。これまでの国内外における私の研究教育ならびに社会実践活動の実績を生かし、和歌山県において、生物多様性和歌山戦略づくりや、「みなべ・田辺の梅システム」など世界・日本農業遺産の認定に関わらせていただいたことを大変嬉しく思っております。この度の受賞を大きな励みとして、ふるさと和歌山の豊かな社会づくりにさらに貢献できるよう、一層精進していきたいと思います。

≪文化功労賞　ＴＯＮＰＥＩ　様≫

この度は和歌山県文化功労賞を賜り誠に光栄に存じます。子供の頃より歌う事が大好きで、そんな私が歌手になりたいと夢を持ったのは 10 歳の頃でした。母に連れられて行った加山雄三さんのコンサート。大きなホール、綺麗な照明、迫力ある音響、破れんばかりの感動の拍手、いつか僕もあのステージに立って歌ってみたいと夢を持ち続けそれから半世紀、あの時と同じ舞台でコンサートを開催することができました。歌は人を元気にします、人の心を豊かにします。これからもこの賞に恥じないよう声の続く限り、和歌山を歌で元気に、を合言葉に歌い続けて参ります。

≪文化功労賞　宮澤　敏夫　様≫

この度は文化功労賞の栄誉に浴し、心より感謝します。大阪フィルのコントラバス奏者であった私が結婚して和歌山市に住居を構えたのが 1968 年、音楽を通して自分が住みやすい街作りを願い「和歌山音楽振興会」を設立、以後 40 年に渡り活動をしてまいりました。 その後も地方文化の向上と啓蒙に取り組み、大阪は元より東京、札幌、長野、そして現在の静岡で未だに啓蒙運動を続けております。オーケストラ界では最年長者として、この業界の発展に寄与しています。

≪文化功労賞　宮西　照夫　様≫

1971 年、和歌山県立医科大学学生時代にマヤ文明に興味を持ち 48 回現地訪問調査を行い、日本にマヤ文明や文化を紹介するとともに、文化とこころの病をテーマにした研究を続けてきました。一方、国内では 1982 年から若者文化とこころの病に興味を持ち、特に社会的ひきこもりの研究と支援活動を 42 年間実施してきました。家族とその過程で得た国内外での素晴らしい仲間との出会いが、40 年以上にわたる研究と実践活動を支えてくれたと感謝しています。

≪文化奨励賞　岩田　直樹　様≫

この度、和歌山県文化奨励賞という身に余る賞を賜りましたことを、大変嬉しく思います。育ててくださった両親をはじめ、支えてくださった皆様のおかげなので、自分だけではなく皆様に対しての賞だと思っております。そして、障害者という当事者として障害者の皆様への大きな励みになるのではないかと思っております。

私は何かを作ることが好きで、グラフィックデザイナーとして活動を続けてまいりましたが、頂いた文化奨励賞に恥じぬよう、より一層身を引き締めて参ります。微力ではありますが、愛する和歌山に恩返しできるよう、これからも精進致します。

≪文化奨励賞　寺下　真理子　様≫

この度は、文化奨励賞をいただきました事、大変光栄に存じます。伝統あるこの賞に相応しい音楽家で在れる様、そして、いつも温かく応援してくださる方々への感謝を胸に、日々邁進していきたいと思います。音楽を通じて、感動や喜びを、時には悲しみを、皆様と分かち合えれば幸いです。音楽が持つ無限の可能性を信じ、これからも音楽と共に人生を歩んで参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

≪文化奨励賞　冷水　乃栄流　様≫

この度は和歌山県文化奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。私は幼少の頃から、和歌山の自然に囲まれて育ちました。瑞々しい木々の緑、紀の川の豊かな流れ、橋本川で日が暮れるまで遊んだ日々…これらが私の音楽作品の原風景となっています。また、幼い頃から私を育み支えてくださった家族や先生方、仲間のゆえに今の私の活動があります。このご縁に感謝し、作曲家という立場から愛する故郷和歌山に関わり続け、音楽を分かち合っていきたいと願っています。